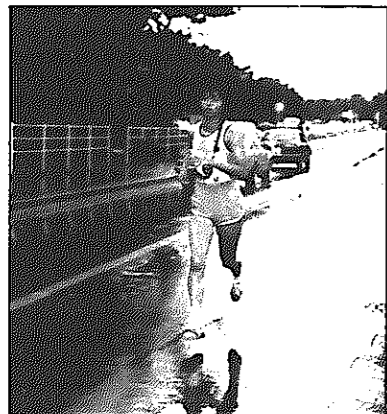


女子駅伝で力走する正子さん



陸上競技に大活躍した三兄弟

田中厚さん (24歳・農業・下鷺ノ木)
 智子さん (22歳・保母)
 正子さん (15歳・大鷺中学校3年)



グラウンドにはばたけ

昨年、三人そろって全国、県レベルの陸上競技大会に活躍した田中三兄弟。
 長男の厚さんは、八月に開かれた県青年大会の陸上競技四百メートルで優勝。長女の智子さんも同じ大会

の八百メートルで優勝。そろって十一月東京都で開かれた全国大会への出場を果たした。二人とも決勝進出はならなかったが、「いい思い出になりました」と語る。厚さんは、一昨年の県青年大会でも、野球に

市代表チームの投手として出場し優勝。その大会で智子さんも八百メートルに出場し、二位になっている。

また、二女の正子さんは五月に開かれた市内中学生陸上競技会の八百メートルで優勝。十月に行われた郡市対抗女子駅伝の、市代表チームの一員に選ばれた。アンカーとして最後の四・五キロを走った正子さんは、「参加した二十二チームの十五位を目標にしましたが、十七位に終わってしまい、ちょっと残念でした」と話す。

三人は、共に長距離を得意としている。厚さんと智子さんも、小中学校時代に長距離で市内一位になったことがある。「それぞれの小中学校時代の成績を比べてみると、正子が一番走りますね。それに、まだ伸びる可能性もっています」と厚さん。

両親も昔は、青年大会や駅伝の選手として活躍していた。「うちの家系は、みんなが走るみたいです」と話す智子さん。「これからも、それぞれが何らかの形で走り続けていきたい」と話す三兄弟だ。

花木・球根栽培で欧州視察

遠藤 克さん

(24歳・農業・中塩俵)

オランダの育種農家で



球根栽培にかける

「球根は、花がきれいに咲いても、実際に掘り出してみないと、出来の善し悪しがわからないんです。また、アイリスやクロッカスなど技術的に確立されていない品種もあり、それだけに難しく、またやりがいもあります」と話す遠藤さん。

藤さん。克さんと両親の三人で、球根を一・五畝栽培。それに水田を一・五畝耕作している。克さんの担当は主に球根栽培。チューリップ、クロッカス、アイリスなどの秋植え球根を栽培している。



農業高校を卒業と同時に就職。「長男ということもあって、自然に農業を継いだという感じでした」と言いながらも、少しでも早く多くの技術を身につけようと、県内の先進地視察を重ね、助言を受けたりしてきた。また、農業青年サークルに入り、農業に意欲的に取り組む同世代の若者たちと、知識や技術の交換、お互いの農業観などを熱く語り合ったことも……。

昨年五月には、県花木球根農業協同組合欧州視察研修団の一員として、花木・球根づくり世界一といわれるオランダなど五か国の農業を視察してきた。「技術的なことはもちろん、農業に取り組む姿勢など学ぶべきことが多かった」と語る。

稲が終われば球根栽培と、一年中農業のできる喜びを感じるという遠藤さん。「良い球根を栽培することはもちろんですが、その球根を利用して、これからは切り花にも挑戦してみたい」と、意欲を燃やしている。